

## 少子社会における成人期への移行に関する母子保健学的研究 大学生および中学生の意識と行動に関する調査より

母子保健研究部 齋藤幸子  
客員研究員 宮原 忍  
目白大学 内山絢子  
人間総合科学大学 星山佳治  
嘱託研究員 近藤洋子（玉川大学）  
国立社会保障・人口問題研究所 佐藤龍三郎

### 要 約

若者の家族形成意欲に関連する要因を探る目的で、2001年に実施された大学生調査のデータ912件と本年実施した中学生調査のデータ524件を分析した。中学生における親密性の高さは、将来の家族形成への意欲と関連があるとの仮説を検証した。

大学生データにおいて、結婚希望を規定する要因は「結婚は永遠である」という価値観であった。中学生の結婚希望と最も関連があったのは「いつか人生をともにするパートナーに出会える」という意識だった。共通するのは、安定、継続といった結婚に関する肯定的な意識であるといえよう。

中学生の結婚希望は子どもを持つ希望や子育てに意義があるとする意識と強い関連があり、結婚と子どもをもつことのイメージが一体となっていることが伺われた。

中学生の家族形成意欲が高いグループは、人との付き合いが豊かで、恋愛に積極的、親密性の得点が高かった。すなわち、仮説は証明された。また、安心できる居場所があるとした割合が高かった。

結論として、家族形成意欲は、結婚や子どもをもつことへの肯定的な態度や現在の親密な人との関係、心の安定と関連があるといえる。

もう一つの目的であるアンケートの教育的意義についても、末尾の記述回答から確認することができ、アンケートに答えることにより、自分の将来について考えるきっかけとなったとした中学生が認められた。

キーワード：成人期への移行、家族形成意欲、恋愛観、親密性、

### Survey on the Transition to Adulthood in the Less Fertile Japanese Society from the Viewpoint of Maternal and Child Health

Sachiko SAITO, Shinobu MIYAHARA, Ayako UCHIYAMA,  
Yoshiharu HOSHIYAMA, Yoko KONDO, Ryuzaburo SATO

**Abstract** : To investigate for the factors related to young people's motivation to form a family, a sample of 912 university students collected in 2001 and a sample of 524 junior high school students collected in 2009 were analyzed. The hypothesis was that the score of intimacy is related to the motivation to form a family. The result is as follows.

The university students' motivation to get married is related to their sense of value that "marriage is eternal," while the motivation of the junior high school students to get married is related to the hope that "some day I will meet a partner with whom I can live my life." A common factor in both samples was stability or the continuance of marriage.

The junior high school students' motivation to get married is also related to their willingness to have children. Hence, their perception of marriage seems to be associated with their motivation to have children.

The group of junior high school students wanting to form a family was sociable, had a positive attitude to love, and had a high score of intimacy—the hypothesis was proven. These students answered, "I have a certain space where I get peace of mind."

In conclusion, the motivation to form a family is related to the affirmative attitude to marriage and to having children, the intimacy in the relationships with others, and sense of values such as stability or peace of mind.

An educational effect, which was another purpose of this research, was confirmed from the descriptive answers. Some of the junior high school students felt that answering these questions gave them a good chance to think about their future.

**Keywords** : Transition to adulthood, Family formation, Sense of value about love, Intimacy

## I. 研究目的

本研究は、平成18～20年度に行ったチーム研究「少子社会における養育力の背景とその育成に関する研究」<sup>1-3)</sup>に続き、少子問題研究の一環として実施するものである。我々はこれまでに、E.H.エリクソンの成人期の命題“ジェネラティビティ”上位概念として、個人の養育力とその背景要因について多面的に調査を行い、養育力の獲得は人格の成熟によること、青年が「大人になること」への支援が喫緊の課題であることを明らかとした。

近年、人口学・社会学領域においては、成人期への移行“transition(s) to adulthood”の時期に注目が集まり、ライフイベント（卒業、就職、離家、結婚、出産）の多様化、非定型化が指摘され、わが国における新たな青年支援の方策が求められている<sup>4)</sup>。

宮本<sup>5)</sup>によれば、EUにおける若者政策は、①人としての発達を促す、②経済・雇用政策、③シティズンシップの保障、という3つの要素に整理されている。母子保健の視点から本研究が問題とするのは、このうち「人としての発達」という最も基盤となる領域にあたると思われる。さらに母子保健学的に言及すれば、成人への移行とはライフサイクルの中で、それまで育てられてきたものが次の世代を生み、育てるものへと変わっていく成熟の過程といえる。

以上から本研究では、青年が将来の親になることを視野に入れ、男女のパートナーシップの形成、家族形成の過程として成人への移行期をとらえ、養育力を備えた家庭形成を目標とした若者への支援策について検討することとした。男女共同参画社会へ向けて、心身ともに健康で、親・職業人・市民としてバランスのとれた成人への移行を支援する方策を考案する。

政策課題との関連としては、子ども・子育てビジョン（平成22年1月29日）における、目指すべき社会への政策4本柱の1「子どもの育ちを支え、若者が安心して成長できる社会へ」における施策の具体的内容「家族形成に関する調査・研究等」に対応するものである。

## II. 研究方法

およそ3年間の計画で、青年期から成人期にかけての男女のパートナーシップ形成や家族形成について課題を明らかにし、年齢段階に添った支援策を考案する。

青年に対するアンケート実施に当たっては、実態把握の統計的目的のみではなく、回答者が調査に参加することによって将来について考えるきっかけを得るなど、教育的意義を重視する。本年は以下の2つの調査データを分析した。

### 1. 大学生データの分析

2001年度に大学生を対象に実施された日欧性行動・意

識・価値観比較調査（厚生科学研究 主任研究者 小島宏・調査主体：日欧性行動比較調査研究会）<sup>6)</sup>の日本の大学生データ980票の提供を受け、既婚者と年齢25歳以上を除いた912票を分析した。同調査は、2001年にイタリアの人口学者ジャンピエロ・ドラズアンナ教授より、国立社会保障・人口問題研究所へ共同調査の提案があり、国内21大学で実施されたものである。イタリアから送られた調査票が翻訳され、わが国独自の設問としては「結婚の意志」「希望子ども数」が加えられた。目的変数を「セクシャルライフの満足度」「結婚の意志」「希望子ども数」として男女別に重回帰分析を行った。

### 2. 中学生を対象とした「あなたの将来に関するアンケート」

現代中学生の人付き合い、将来観、恋愛観などの実態を明らかにし、仮説「人との付き合いが豊かで、同一性・親密性得点の高い中学生は、将来の家庭形成に意欲的である」を検証する。同一性・親密性はE.H.エリクソンの成人期の命題“ジェネラティビティ”の前段階の青年期および前成人期の課題である。

1) 対象：都内公立中学校約70カ所に依頼し協力を得られた3校において実施した。

2) 調査方法：集合調査法。教室において学級活動の時間などが利用された。

3) 倫理的配慮：中学校の教師により、調査の目的とプライバシーの守秘について説明し、生徒の了解を得て実施した。答えたくない生徒には強制しないこととした。なお、調査内容および方法については、日本子ども家庭総合研究所倫理委員会の承認を得た。

4) 調査期間：2010年2月～3月。

5) 調査内容：将来について（仕事、結婚、子どもを持つこと）、人との付き合いについて、理想の恋人・結婚のイメージ、居場所観、男女平等観、子ども観、社会観、大人観、同一性、親密性など。調査票は稿末に掲載。

## III. 研究結果

### 1. 2001年度大学生調査データ分析

基準変数を「セクシャルライフの満足度」「結婚の意志」「子どもの希望数」として、これらの規定要因を探るため男女別に重回帰分析を行った。全100項目から今回使用した説明変数は、K7性行動に関する価値観、K8一般的な価値観、および、身長、体重、喫煙、外見の満足度、最近3カ月の性交回数である。使用した調査項目について以下に述べるが、詳細は文献6)を参照されたい。

#### 分析に使用した調査項目

- (1) 身長：148cm未満～198cm以上を5cmきざみ12段階。
- (2) 体重：43kg未満～107kg以上を5kgきざみ15段階。
- (3) 喫煙：11～13歳、14～15歳、16～18歳、現在の4つ

の時期について、「なし」「1日1〜7本」～「26本以上」5件法。

(4)外見の満足度：14〜15歳、16〜18歳、現在の3つの時期について、「いいえ」～「満足していた」4件法。

(5)最近3カ月の性交回数：「一度もない」～「ほぼ毎日」まで8件法。

(6)K7性行動に関する価値観：若い人達の間で起こりがちな以下の状況について、回答者の両親・友人・回答者自身はどんなふうに考えるか。それぞれについて「4同意をする・3たぶんする・2まずしない・1同意しない」から1つを選ぶ4件法である。6項目について男性の場合、女性の場合で12項目、それぞれ3者の同意について尋ねるので、計36項目となる。

K7-1. 男性/女性が非常に若い年齢で性交を経験する

K7-2. 付き合っている相手（ステディな関係）のいる男性/女性が、ある日「一夜だけの情事」をする

K7-3. 決まった相手のいない男性/女性が、行きずりの相手と性関係をもつ

K7-4. 男性/女性がかかなり年齢が高くなっても童貞/処女のままでいる

K7-5. 男性/女性が結婚するまで童貞/処女でいる

K7-6. 男性/女性が同性と性的関係を持つ

(7)K8. 一般的な価値観：各項について「1全くそう思わない・2そう思わない・3どちらでもない・4けっこうそうだ・5全くそうだ」の5件法。

K8-1. 自分の体について満足している

K8-2. 最新の流行を追うことは好きだ

K8-3. しばしば、私の人生は目的がないと感ずることがある

K8-4. 結婚は永遠である

K8-5. いろいろな品物が手に入ることで人々の生活が良くなった

K8-6. 私は生きて行く上でこれ以上のものはいらぬ

K8-7. 不安や居心地の悪さで、どのように対処しているか分からないことがある

(8)K9. セクシャルライフの満足度：「不満である」～「非常に満足している」5件法

(9)K10. 結婚の希望：「いますぐ結婚したい」「いずれ結婚したい」「一生結婚するつもりはない」から選択

(10)K11. 子ども希望：「もつつもりはない」「1人」～「4人以上」5件法。

以下の分析結果の表1～6においては、項目文を短縮して記載した。例えば、「K7-3. 男性行きずり（男友人）」とは、K7-3. 決まった相手のいない男性が、行きずりの相手と性関係をもつ」ことに対して、回答者の男性の友人が同意するかどうか、を示している。

### 1) セクシャルライフの満足度を規定する要因（男女別重回帰分析）

表1より、セクシャルライフの満足度の高い傾向にある男性は、最近3カ月の性交回数が多く、決まった相手のいない男性が行きずりの相手と性関係を持つことに対して、男の友人は否定的である一方、決まった相手のいない女性が行きずりの相手と性関係を持つことに対して、女の友人は肯定的であり、生きていくうえで、これ以上ものはいらぬと考えていると解釈できる。

表2より、セクシャルライフの満足度の高い傾向にある女性は、最近3カ月の性交回数も多く、流行を追うのは好きでなく、結婚は永遠であり、現在の外見に満足して、これ以上ものはいらぬ、ステディな相手がいる女性が一夜の情事をすることに否定的で、自分の身体に満足している人と解釈できる。男性よりK8の項目が多い。

### 2) 結婚の希望を規定する要因（男女別重回帰分析）

表3より、結婚を希望している男性は、結婚は永遠だと考え、若い女性の性交経験に自分は肯定的で、男性が同性と性的関係を持つことに両親は否定的と考え、女性が同性と性的関係を持つことに女性の友人は肯定的と考え、若い女性の性交経験に女性の友人は否定的と考え、最近3カ月の性交回数が多い傾向にあるものと解釈できる。

表4より結婚を希望している女性は、結婚は永遠だと考え、最近3カ月の性交回数も多く、流行を追うのが好きで、現在の外見に満足して、現在タバコをよく吸い、結婚するまで童貞でいることに男性の友人は肯定的と考え、女性が同性と性的関係を持つことに自分は否定的な傾向にある者と解釈できる。

### 3) 希望子ども数を規定する要因（男女別重回帰分析）

表5のモデルの説明力は非常に小さいが、希望子ども数の多い男性ほど、最近3カ月の性交回数も多く、結婚は永遠だと考え、決まった相手のいない女性が行きずりの相手と性関係を持つことに自分は肯定的で、結婚するまで童貞にままだることを男性の友人は否定的と考え、人生目的がないとは感じていなく、これ以上のものはいらぬと考えている傾向にある者と解釈できる。

表6のモデルの説明力は非常に小さいが、希望子ども数の多い女性ほど、結婚は永遠だと考え、男性が同性と性的関係を持つことに両親は肯定的であり、体重は大きいほど、女性が同性と性的関係を持つことに女性の友人は否定的と考え、人生目的がないとは感じていなく、決まった相手のいない男性が行きずりの相手と性関係を持つことに男性の友人は否定的と考えている傾向にある者と解釈できる。

表1. セクシャルライフの満足度を規定する要因：重回帰分析結果（男性）

変数	標準回帰	F 値	p 値	偏相関
3ヶ月間の性交回数	0.39	67.3	0.000	0.42
K7-3. 男性行きずり（男友人）	-0.27	18.5	0.000	-0.24
K7-3. 女性行きずり（女友人）	0.21	11.7	0.000	0.19
K8-6 ものはいらぬ	0.16	12.2	0.000	0.19
K7-2 女性一夜（私）	-0.14	7.0	0.008	-0.15
外見満足 14～15 歳時	0.13	8.3	0.004	0.16
身長	-0.12	6.6	0.010	-0.14
喫煙 16～18 歳時	0.09	3.9	0.047	0.11
K7-5 女性結婚まで処女（女友人）	0.09	4.1	0.042	0.11
K8-5 品物生活良くなる	0.09	3.8	0.049	0.11
K7-2 男性一夜（両親）	-0.08	2.4	0.121	-0.08

自由度再調整済重相関係数 0.55017 ( 0.30268) p 値 0.000  
 単相関係数と偏回帰係数の符号の不一致なし

表2. セクシャルライフの満足度を規定する要因：重回帰分析結果（女性）

変数	標準回帰	F 値	p 値	偏相関
3ヶ月間の性交回数	0.28	47.4	0.000	0.28
K8-2. 流行追うのが好き	-0.13	10.9	0.000	-0.14
K8-4. 結婚は永遠	0.13	9.7	0.001	0.13
外見満足現在	0.13	8.3	0.004	0.16
K8-6. ものはいらぬ	0.10	6.9	0.008	0.11
K7-2. 女性一夜（私）	-0.08	4.6	0.032	-0.09
身体に満足	0.08	3.0	0.083	0.07
K7-6 男性が同性と関係（私）	0.08	3.7	0.053	0.08
K8-3. 人生目的ない	-0.06	2.7	0.095	-0.07
喫煙 16～18 歳時	-0.05	2.1	0.147	-0.06

自由度再調整済重相関係数 0.40988 ( 0.16800) p 値 0.000  
 単相関係数と偏回帰係数の符号の不一致なし

表3. 結婚の希望を規定する要因：重回帰分析結果（男性）

変数	標準回帰	F 値	p 値	偏相関
K8-4. 結婚は永遠	-0.32	38.4	0.000	-0.33
K8-1. 若い女性の性交（私）	-0.19	7.9	0.005	-0.15
K7-6. 男性が同性と関係（両親）	0.17	8.5	0.003	0.16
K7-6. 女性が同性と関係（女友人）	-0.16	7.6	0.006	-0.15
K8-1. 若い女性の性交（女友人）	0.14	4.2	0.039	0.11
3ヶ月間の性交回数	-0.14	7.5	0.006	-0.15
K8-2. 女性一夜の情事（女友人）	-0.14	5.3	0.021	-0.13
K8-2. 男性一夜の情事（両親）	0.10	3.2	0.072	0.10
喫煙現在	-0.09	3.1	0.078	-0.10

自由度再調整済重相関係数 0.41166 ( 0.16974) p 値 0.000  
 単相関係数と偏回帰係数の符号の不一致なし

表4. 結婚の希望を規定する要因：重回帰分析結果（女性）

変数	標準回帰	F 値	p 値	偏相関
K8-4. 結婚は永遠	-0.29	49.1	0.000	-0.28
3ヶ月間の性交回数	-0.12	10.0	0.001	-0.13
K8-2. 流行好き	-0.09	5.8	0.016	-0.10
外見の満足現在	-0.08	4.6	0.030	-0.09
喫煙現在	-0.07	3.6	0.056	-0.08
K7-5. 結婚するまで童貞（男友人）	-0.07	3.2	0.074	-0.07
K7-6. 女性が同性と関係（私）	0.06	2.8	0.092	0.07

自由度再調整済重相関係数 0.40165 (0.16133) p 値 0.000  
 単相関係数と偏回帰係数の符号の不一致なし

表5. 希望子ども数を規定する要因：重回帰分析結果（男性）

変数	標準回帰	F 値	p 値	偏相関
3ヶ月間の性交回数	0.19	12.3	0.000	0.19
K8-4. 結婚は永遠	0.15	8.0	0.004	0.16
K7-3. 女性行きずり（私）	0.15	7.8	0.005	0.15
K7-5. 結婚するまで童貞（男友人）	-0.12	5.0	0.025	-0.12
K8-3. 人生目的ない	-0.11	4.8	0.027	-0.12
K8-6. ものはいらぬ	0.08	2.4	0.121	0.08
喫煙現在	-0.08	2.1	0.144	-0.08

自由度再調整済重相関係数 0.28490 (0.08117) p 値 0.000  
 単相関係数と偏回帰係数の符号の不一致なし

表6. 希望子ども数を規定する要因：重回帰分析結果（女性）

変数	標準回帰	F 値	p 値	偏相関
K8-4. 結婚は永遠	0.23	29.2	0.000	0.22
K7-6. 男性が同性と関係（両親）	0.16	12.6	0.000	0.15
体重	0.12	8.7	0.003	0.12
K7-6. 女性が同性と関係（女友人）	-0.10	4.2	0.039	-0.08
K8-3. 人生目的ない	-0.09	4.7	0.029	-0.09
K7-3. 男性行きずり（男友人）	-0.09	5.7	0.016	-0.10
K8-6. ものはいらぬ	0.08	4.6	0.031	0.09
外見の満足現在	0.08	3.8	0.051	0.08
K7-1. 若い男性の性交（両親）	-0.08	4.6	0.030	-0.09
K7-4. 男性が童貞のまま（両親）	0.07	3.4	0.062	0.08
K7-5. 結婚するまで童貞男（友人）	-0.07	3.1	0.076	-0.07
3ヶ月間の性交回数	0.06	2.5	0.114	0.06
K8-2. 流行好き	0.06	2.4	0.114	0.06
喫煙 11~13	0.05	2.0	0.149	0.06

自由度再調整済重相関係数 0.34575 (0.11954) p 値 0.000  
 単相関係数と偏回帰係数の符号の不一致なし

#### 4) 小活

セクシャルライフの満足度についてモデルの説明力を見ると、男性は30%であるのに対し、女性は17%と低い。最も関連の高い要因は、男女とも最近3カ月の性交回数が多いことであるが、その他の要因は大きく異なる。女性の場合は、流行を追うのは好きでなく、結婚は永遠であり、現在の外見に満足していることと関連を見せるが、これらの要因は男性では関連性を見せない。最近3カ月の性交回数の偏相関係数は、男性が0.42、女性が0.28と開きがあり、男性は性行為に重点をおいているようであるが、女性はそれほどでもなく、嗜好や考え方などが影響していると思われる。

結婚を希望している人についてモデルの説明力を見ると、男性は17%、女性は16%と同程度であり、男女とも結婚は永遠だと考えることが、結婚の希望となって表れるようである。他の要因で関連性の強いものはなく、結婚に価値を認めている、結婚に夢があると結婚を肯定的にとらえているが重要であるようだ。

希望子ども数についてモデルの説明力を見ると、男性は8%、女性は12%であり、説明力はかなり小さいものである。男性で最も関連性の強い因子は、最近3カ月の性交回数であるが、女性は結婚は永遠だと考えることである。しかしモデルの説明力を考えれば、ほんの一部を説明しているに過ぎず、ここで取り上げていない他の因子、例えば社会の情勢や経済的な状態などを検討してみる必要があるだろう。

## 2. 中学生を対象とした「あなたの将来に関するアンケート」

有効回答524件（男性281名・女性243名）について集計した。学年別の内訳は1年生275名、2年生142名、3年生107名であった（後掲表7）。はじめに性差、学年差について触れながら全体の傾向を述べ、次いで仮説の検討を行う。有意差判定はWilcoxon、またはKruskal-Wallisの順位和検定およびカイ2乗検定で行ない、危険率0.05以下を有意差ありとした。集計表は末尾にまとめて掲載した。

### 2-1. 単純集計および性別・学年別集計結果

#### 2-1-1. 将来について

対象の中学生が自分の将来についてどの程度イメージを描いているか、進学から、就職、家族形成までのイベント、およびパートナーについて設問した。

##### 1) 進路

中学卒業後の進路はすぐに就職するとの回答はなく、「高校卒業後就職」が23.9%、「高卒後大学や専門学校へ行く」71.0%、その他が4.6%であった。性別にみると「大学や専門学校」と答えた割合は、男性66.5%に比べ女性76.1%と女性の方が10ポイント高く、学年別で

は、1年生65.8%、2年生73.9%、3年生80.4%と学年が上がるにつれて割合が上がっていた（表8）。

##### 2) 仕事

将来つきたい仕事を「はっきり決めている」割合は34.9%、「仕事につきたいが、内容は決めていない」49.4%、「将来のことはまだ考えていない」15.8%であった。性別でみると、はっきり決めている男性31.3%・女性39.1%と女性の割合が高く、まだ考えていない男性19.1%・女性11.1%と男性の割合が高かった。学年別では一定の傾向は認められなかった（表9）。

##### 3) 結婚の希望

結婚したい年齢について回答があった割合は全体の47.9%で、「時期は決めていないが結婚したい」25.4%とあわせて73.3%に将来結婚する意志が認められた。一方「全く分からない」は20.8%、「結婚はしないつもり」は5.5%であった。結婚したい年齢を答えた割合を性別にみると、男性は35.9%・女性61.7%と女性の割合が高かった。学年別では1年生41.5%・2年生57%・3年生52.3%で、1年生が他群に比べて結婚の時期についてのイメージをもつ割合が低かった（表10）。

結婚したい年齢は最小値18、最高値32で、平均値は23.4歳であった。最頻値25歳67名（251名中）、次いで23歳49名、20歳40名などであった。性別に平均値をみると、男性24歳・女性23.1歳で男性が有意に高かった（ $p<0.01$ ）。学年別では、1年生23.1歳、2年生23.5歳、3年生24歳と学年が上がるにつれて、結婚希望年齢は高くなっていた（ $p<0.05$ ）（表10-1）。

##### 4) 子どもをもつ希望

将来もちたい子どもの人数については1~10人の記入を有効回答とした。62.0%が人数を記入し、38.0%は「分からない」と答えた。子ども数の記入あり、すなわち親になる意志がある割合を性別にみると、男性50.9%に対して女性73.3%と女性の割合が有意に高かった（ $p<0.01$ ）（表11）。

将来もちたい子どもの人数の有効回答全体の平均は2.38人、男性2.47人、女性2.31人で有意差はなかった。学年別では、1年生2.32人、2年生3.37人、3年生2.51人と学年が上がるにつれて多くなっていたが有意差はなかった（表11-1）。

##### 5) 結婚のイメージ

結婚に対してどのようなイメージをもっているかについては、肯定的な項目のみをあげて複数選択可とし、選択肢以外のイメージを持つ場合は記述回答を求めた。

選択率の1位は男女ともに「4. 愛する人と暮らせる」で全体の62.4%、男性56.9%・女性68.7%で女性が有意に高かった（ $p<0.01$ ）。2位は男女ともに「5. 子どもを持つことができる」47.1%、男性38.8%・女性56.8%で女性が高かった（ $p<0.01$ ）。3位は「3. 精神的に安定する」26.7%で、男性31.3%・女性21.4%で男性が高かった。

性別に見ると、女性の3位は「2. 経済的にゆとりが持

てる」男性 17.1%・女性 28.4%で女性が高くなっていた ( $p<0.01$ )。「1.社会的な信用が増す」は 19.5%、「6.親から独立できる」は 23.7%で性差はなかった。

学年別では「4.愛する人と暮らせる」のみで有意差が認められ、学年が上がるに連れて割合が高くなっていた ( $p<0.01$ ) (表 12)。

その他の結婚のイメージとして記述回答があったのは 48 名 (男性 31 名・女性 17 名) 9.4%で、計 54 件の記述があった。内容をポジティブかネガティブかで分類したところ、ポジティブ・イメージは男性 15 件・女性 11 件、ネガティブ・イメージは男性 11 件・女性 5 件、どちらとも言えない記述は男性 5 件・女性 1 件、「イメージがない」「よく分からない」が男性 4 件・女性 1 件であった。

さらにその内容を整理すると、ポジティブな記述には、「楽しい・幸せ」などの幸福なイメージが 10 件、「助け合う」などパートナーとの関係がイメージされていたものが 5 件、「家族ができる」など家族形成の記述は 4 件、世代継承的な価値が 2 件、自己のアイデンティティに関わる記述が 2 件であった。

ネガティブな記述では、「大変・自由がなくなる」など負担感をあげるものが多く、精神的、経済的を含めて 9 件あった。DV など結婚後の関係が悪化するイメージは 4 件であった (表 12-1)。

## 6) 理想の恋人・カップル

将来どのような相手とどのような関係を築くことを望んでいるかを調べるために、回答者が理想とする恋人やカップルの例をあげてもらい、実在の人物か架空の存在かのジャンルを選択肢で、理想とした理由は記述回答で求めた。回答をみると、実在の人物を題材にした小説やアニメなどがあり、ジャンルについては分類が曖昧な例がみられたが、判断不能のため回答のままの分類で集計した。

理想の恋人の例として名前をあげたのは全体の 47.7%、男性 33.5%・女性 64.2 で女性の記述した割合が高かった。ジャンル別では、実在が 42.8%と最も多く、次いでコミック 28.0%、TV ドラマ・映画 11.6%であった。女性は実在の人物をあげる割合が 50.0%と男性 30.9%に比べて高かった (表 13-1)。

理想のカップルの例については、全体の 36.3%、男性 26.3%・女性 47.7%で回答があった。記述のあった割合は理想の恋人の例より少なかった。女性の方が記述した割合が多かったことは恋人の例と同様であった。理想のカップルとしてあげられた人物のジャンルは、実在が 53.7%、次いでコミック 15.8%。と上記恋人と同傾向であった。性差は認められなかった (表 13-2)。具体的な例としてあげられたのはテレビなどの登場人物が多く、両親など身近な例をあげた例は少なかった。

恋人の理想としてあげた理由は 254 名の記入があり、内容は 364 件であった。1 位は「かっこいい」76 件で、「かわいい」「イケメン」など容姿に関わることの合計は

121 件であった。つづく 2 位は「やさしい」47 件で、「あかるい」「強い」など性向に関するものの合計は 168 件であった。その他「頭がいい」「〇〇がうまい」など能力に関わることが合計 31 件、「分かってくれる」「守ってくれる」などパートナーとの関係性について 22 件であった (表 13-3)。

理想のカップルの理由は 190 名の記入があり、内容は 218 件であった。第 1 位は「仲が良い」「愛し合っている」42 件で、「お似合い」「互いに尊敬」など関係性に関する合計は 94 件であった。ついで 2 位は「笑顔が絶えない」「楽しい」20 件で、「幸せそう」などの含めた性向の合計は 62 件であった。家庭や子どもについては「明るい家庭」ほか「性別役割分担型肯定」も含めて 29 件であった。容姿や財力などの条件の良さが 7 件であった。その他、不明としたのは「好きだから」「最高」など、内容がないまたは判別不能 26 件であった (表 13-4)。

## 7) 将来について：小活

以上、中学生が自分の将来をどのように描いているかは、つきたい職業が決まっている割合は 35%、結婚したい年齢を回答した割合 48%、持ちたい子ども数を回答した割合 62%という結果であった。いずれも女性の割合が男性より高かった。また女性は男性に比べ、結婚と子育てが結びついたイメージと理想の恋人と結婚の具体的なイメージを持っている割合が高かった。

恋人の理想とした理由について、容姿や性向が多くあげられたが、理想のカップルでは、二人の関係性についての理想もあげられた。

## 2-1-2. 現在の人付き合い

人間関係が希薄になったと言われる現在、中学生はどのように人と関わっているかの実態を知る目的で、インターネット利用も含めた友人関係や恋愛観を尋ねた。

### 1) 周囲の人との付き合い：誰とどんな話をするか。

周囲の人との付き合いの広さや親密度を調べるため、「同性の友達」「異性の友達」「保護者」「カレシまたはカノジョ (恋人)」のそれぞれとどんな話をよくするか、10 項目の内容をあげ該当する項目の選択を求め、範囲と量を把握した。

#### a. 同性の友達との話題

話す相手別に内容をみると、同性の友達とよく話すと答えた割合は「テレビ番組や芸能界のうわさ話」を 76.7%、「学校や授業や成績のこと」74.0%、「同性の友達のこと」73.1%、が上位を占めていた。

性差は「異性の友達のこと」「恋愛に関わること」「テレビ番組や芸能界のうわさ話」「ファッションや流行、趣味の話」で、女性の話すと答えた割合が男性に比べ有意に高かった。

学年別では、「将来の進路や生き方、考え方」「異性の友達のこと」「性行為に関すること」が、学年が上がるにつれて割合が高くなっていた (表 14-1)。

## b. 異性の友達との話題

異性の友達とは、同性の友だちほど割合が高くはないが、話す内容の上位は同じで、「学校や授業や成績のこと」46.9%、「テレビ番組や芸能界のうわさ話」37.2%であった。

性差は「異性の友達のこと」「恋愛に関すること」で女性の割合が男性に比べ有意に高く、「自分の体のこと」は男性が女性に比べ有意に高かった

学年別では、すべての項目で学年が上がるにつれて割合が高くなっており、8項目で有意差が認められた(表14-2)。

## c. 保護者との話題

保護者とは、「学校や授業や成績のこと」81.3%、「将来の進路や生き方、考え方」64.5%が上位を占め、次いで「テレビ番組や芸能界のうわさ話」51.5%、「新聞やニュースや社会のこと」51%となっていた。

「保護者」とはほとんどの項目で女性が男性に比べて割合が高く、7項目で有意差が認められた。保護者との話題では、学年差はなかった(表14-3)。

## d. カレシまたはカノジョ(恋人)との話題

恋人とは「恋愛に関すること」が最も多く13.0%、次いで「学校や授業や成績のこと」「同性の友達のこと」「テレビ番組や芸能界のうわさ話」がそれぞれ10%程度となっていた。この設問の回答率から恋人ありの割合を算出すると92名17.6%となるので、これらの割合は高率といえよう。

有意な性差は認められず、学年別では7項目で有意差が認められた。一概に学年が上がるにつれて割合が高くなるのではなく、2年生・3年生が1年生に比べて高い項目が多い傾向であった(表14-4)。

## e. 相手別話題の件数合計

誰と話すことが多いかを量的に把握するために、選択された話題の項目数を相手別に合計し平均値を表14-5に示した。「同性の友達」と話す項目が最も多く平均で5.0件、次いで「保護者」3.9件、「異性の友達」2.2件であった。「カレシまたはカノジョ」は0.9件であったが、恋人あり92名を分母とすると5.1件となり、同性の友だちと近い数字であった。

性別に平均選択件数をみると、以下のように女性の方が有意に多かった。「同性の友達」男性4.4件・女性5.6件( $p<0.01$ )、「異性の友達」男性2.1件・女性2.3件( $p<0.05$ )、「保護者」男性3.4件・女性4.5件( $p<0.01$ )。学年別では、「同性の友達」「異性の友達」で学年が上がるにつれて件数が増し有意差が認められたが、「保護者」では差がなかった。

## 2) 友だちとのつき合いについて—友人・ネット・恋愛

人とのつき合い方について15項目をあげ、回答者が該当する項目に○をつける方式で回答を求めた。項目1~4は友人関係について、5~12はネット上の人付き合い、13~15は恋愛観をあげた(表15)。

## a. 友人関係

友人関係では4項目中3項目で性差が認められいずれも女性が有意に高かった( $p<0.01$ )。すなわち「1. 仲の良い同性の友達がいる」男性94.7%・女性99.2%、「2. 仲の良い異性の友達がいる」男性46.6%・女性58.0%、「4. 面と向かって言いたいことを言い合えるのが友達だと思う」男性63.3%・女性75.3%であった。「3. どんなに親しい友達でも、知られたくないことはある」は全体72.5%で、性差は認められなかった。友人関係の4項目はいずれも学年差は認められなかった。

## b. ネット上の人付き合いについて

「5. 自分の携帯電話を持っている」割合は全体の64.9%で、男性57.7%・女性73.3%で女性が有意に高く、学年別では学年が上がるにつれて所有する割合が高くなっていった。

「6. 1日にメールのやり取りは50通を超える」は全体の11.6%で、男性6%・女性18.1%と女性が有意に高かった。学年別では2年生が最も高く19.0%であった。

「7. 1日に携帯電話で2時間以上話す」は全体の2.5%で性差および学年差はなかった。

「8. プロフやブログを持っている」は全体が17.4%で、男性9.6%・女性26.3%と女性が有意に高かった。学年別では学年が上がるにつれて持っている割合が高くなっていった。

「9. メールやり取りを頻繁にしないと友達ではないと思う」は全体の1.9%で性差・学年差はなかった。

「10. 友達ならメールや携帯電話にすぐ返信してくれる」は全体の13.7%で、男性17.5%・女性9.5%で男性が有意に高かった。学年差はなかった。すぐ返信とは「何分以内か」を設問し、66名から回答があった。1分以内は8名、5分以内23名、10分以内13名、20分以内4名、30分以内8名、60分以内8名、5時間以内1名、24時間以内1名で、10分以内が67%を占めていた。

「11. ネットで知り合い、メールをやりとりするだけの関係でも友達だと思う」は全体の16.8%で、男性12.8%・女性21.4%で女性が有意に高かった。学年別では3年生の割合が高かったが有意な差ではなかった。

「12. 直接会わなくてもネット上だけで恋愛することは可能だと思う」は全体の6.7%で、男性3.6%・女性10.3%と女性が有意に高かった。学年差は認められたかった。

## c. 恋愛観

「13. 出会った瞬間に恋に落ちるのが恋愛だと思う」は全体の8.0%で、性差および学年差はなかった。「14. 最良の愛は友情から育つと思う」は33.6%、男性29.2%・女性38.7%と女性が有意に高く、学年別では学年が上がるにつれて高くなっていった。同様に「15. 愛し合っていれば性行為をおこなってもかまわないと思う」は25.0%で、男性21.4%・女性29.2%女性が有意に高く、学年が上がるにつれて高くなっていった。

### 3) 好きになった人へ気持ちをどうやって伝えるか

気持ちを伝えるかでは、1位が「1.相手に直接、自分の気持ちを伝える」31.9%、次いで「5.気持ちを伝えたいが、恥ずかしくて伝えられないと思う」27.9%、「6.伝えようとは思わない」17.9%他であった。性別にみると、男性の1位は「1.直接伝える」33.8%で、女性の1位は「5.恥ずかしくて伝えられない」35.4%であった。学年別では、「1.直接伝える」は学年が上がるにつれ割合が高くなっていった(表16)。

### 4) 人との付き合い：小活

以上から、対象の中学生の周囲との付き合いについては、同性の友人、保護者、異性の友だちの順で話をする事が多く、女性は男性に比べて人との交流が多かった。友だちと話す話題の多くは学年が上がるにつれて増え、友人関係が広がったり深まったりすることが伺えた。友だちとのつき合い方やネット上での人間関係、恋愛についての全体から言えることは、女性の方が活発であるということである。女性は異性を含めた友人と親しくつき合い、ネットを利用した人付き合いや恋愛にも積極的肯定的態度をもっていた。恋愛観については学年上がるにつれて活性化することが伺えた。

### 2-1-3 価値観や意識について

現在の中学生を取り巻く環境に関する意識と将来についての価値観などを尋ねた。

#### 1) 居場所観・平等感など

価値観や意識に関する16項目を「4.そう思う」～「1.そうは思わない」の4件法でたずねた。内容は心の居場所5項目、恋人やパートナーについて4項目、男女平等感2項目、子ども観2項目、社会観4項目である。全体の傾向を肯定か否定かの割合でみた後、4件法得点の平均値で性別・学年別に検討した(表17)。

各項目の「ややそう思う」と「そう思う」の合計(肯定した割合)は、居場所感では「1.私には、安心できる居場所がある」85.3%、「2.私のことを理解してくれる大人がいる」69.1%、「3.私のことを理解してくれる友達がいる」83.0%、「4.私は、ひとりぼっちで寂しい」17.7%、「5.私は、友達がいっても寂しい」15.1%であった。85%程度が心の居場所ありとした。

恋人関連の肯定した割合は「6.友達に恋人がいると聞くとあせる」16.6%、「7.早く恋人が欲しい」42.6%、「8.いつか人生をともにするパートナーに出会える」63.9%、恋人については、まだいなくてもいいと思っている中学生が過半数であり、将来パートナーに出会えると思っている割合は64%である。

男女平等感では、「9.今の社会はだいたい男性の方が女性より優遇されている」36.5%で、「10.男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである」は51.0%が肯定と、半数が性別役割分担を肯定した。

子ども観では、「11.子どもを育てることは、やりがいがある」80.7%、「12.子どもは、家庭に明るさや活気を与える」86.5%と、肯定的な割合が高かった。

社会観では、「13.人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい」89.9%、「14.次の世代の子ども達のために、地球環境をよくしたい」87.2%、「15.18歳になったら、選挙で政治をまかせる人を選びたい」53.1%、「16.ひとりひとりの力が集まれば、社会を変えることができる」79.2%が肯定しており、社会意識は高いが18歳で選挙権を行使することは半数が肯定するにとどまった。

以上が全体の傾向であるが1～4を得点として平均値を算出し、性別、学年別に比較を行った。

性別では、女性が男性より有意に得点が高かった項目は、「3.理解してくれる友だちがいる」「7.早く恋人が欲しい」「8.パートナーに出会える」「9.男性の方が優遇されている」「11.子育ては、やりがいがある」「12.子どもは、家庭に明るさや活気を与える」「13.人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい」の7項目であり、男性が高かった項目は「10.男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである」1項目のみであった。

学年別で差が認められた項目は、「4.ひとりぼっちで寂しい」「5.友達がいっても寂しい」「8.パートナーに出会える」で、学年が上がるにつれ得点が高くなっていった。反対に「10.男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである」は学年が上がるにつれ得点が低くなっていった。「7.早く恋人が欲しい」「9.男性の方が優遇されている」では2年生が他群に比べて得点が高いという傾向が認められた。

#### 2) 将来の生活バランスについて

将来仕事について大切に思うことについて、「4.大切である」～「1.大切でない」の4件法で12項目設問した。この設問は、回答者が自分の将来の生活について考えるきっかけになる教育的意義を目的に、一部「ワーク・ライフ・バランス」憲章(平成19年12月)を参考に作成した。

「4.大切である」と「3.まあ大切である」を合計した肯定の割合は、90%台が「8.休養やくつろぎの時間がとれる」「9.仕事の内容に興味を持てる」「12.仕事を通じて自分の能力が高められる」「3.自立できるだけの収入を得る」「7.学習や趣味・娯楽のための時間がとれる」「5.家庭内で家事や育児をする時間がとれる」「4.家族や友人、恋人と過ごす時間がとれる」「11.仕事を通じて社会の役に立つ」の8項目であった。

次いで80%台が「10.時間を気にせず、思う存分仕事に打ち込める」「2.毎日決まった時間に帰宅できる」「6.地域・社会活動に参加できる」の3項目、70%台が「1.女性が出産や育児をしながら働き続けられる」1項目であった。

「4 大切である」～「1 大切でない」の4件法の平均得点で性別に比較したところ、「1. 女性が働き続けられる」「4. 家族や友人、恋人と過ごす時間」「5. 家事や育児をする時間」「7. 学習や趣味・娯楽のための時間」「8. 休養やくつろぎの時間」「11. 仕事に通じて社会の役に立つ」で女性の得点が有意に高かった。

学年別では「1. 女性が働き続けられる」「5. 家事や育児をする時間」「11. 仕事に通じて社会の役に立つ」で、学年が上がるにつれて得点が高くなっていった(表18)。

### 3) 大人観および大人になりたいか

一人前の大人の条件を13項目あげ、「4 大切である」～「1 大切でない」の4件法で重要と思う程度を設問した。前項「将来の生活のバランス感」と同様に大人になることについて考えてもらう教育的効果を目指した設問である。「大切である」と「まあ大切である」を合計した肯定率は1位「3. 社会的常識が身につく」93.9%以下、すべてが80%以上であった。

しかし、大切と思う度合いは項目によって開きがあり、「大切である」の選択率だけを高い順にみると、70%台は「3. 社会的常識が身につく」「1. 責任ある行動がとれる」「12. 判断力・決断力がつく」が上位を占めた。次いで50%台「4. 社会で役に立つ」「7. 耐えたり、がまんしたりすることを身につける」「9. 税金を納める」「10. 人と調和してやっつけられる」であり、50%以下の項目が「5. 親から精神的に自立する」「14. 周りの人を気づかい、世話をやく」「6. 家族ができる」「13. 自分より年下の人の面倒をみる」「2. 経済的に親の世話にならない」「8. 自分以外の人を経済的に養うことができる」「11. 自分を客観的に見られる」であった。

「4 大切である」～「1 大切でない」の4件法の得点で、性差および学年差を検討した(表19)。「1. 責任ある行動がとれる」で女性の得点が男性に比べ有意に高く、「2. 経済的に親の世話にならない」「5. 親から精神的に自立する」では男性の得点が女性に比べ有意に高かった。

学年別では、「1. 責任ある行動がとれる」「5. 親から精神的に自立する」「10. 人と調和してやっつけられる」「11. 自分を客観的に見られる」「12. 判断力・決断力がつく」で学年が上がるにつれて得点が高くなっていった。

「あなたは大人になりたいですか」の設問に対して「はい」と答えた割合は、全体の67.4%、男性68.3%・女性66.3%、学年別では1年生68.0%、2年生64.1%、3年生70.1%であった。

### 4) 価値観や意識について:小活

以上、価値観や意識に関する設問では、友人関係・恋人関係、子どもや家庭、社会への関与において女性が男性に比べ肯定的で、仕事と家庭や自身の生活とのバランスの意識も女性が高かった。一方、男性は男女の固定的役割分担を肯定する割合が高いという結果であった。

しかし、学年別に見ると、学年が上がるにつれて、役割分担を肯定する割合が低くなり、職業生活と家庭生活

のバランスを大切と考える割合は学年が上がるにつれて高くなっていった。

中学生の大人観は、常識、責任、判断力が大人の条件として最も大切で、自立や家族形成が大切とした割合は半数以下にとどまった。項目によって大切とする程度に性差が認められ、学年とともに大切と思う程度が上がる変化がみられた。

このように現状では価値観や意識に性差が多く認められるが、学年別分析からみると、これらの意識や価値観が今後変化しうるものであることが示唆された。

### 2-1-4. 同一性・親密性

EPSI(エリクソン心理社会的段階目録検査)56項目のうち、青年期の発達課題「同一性」7項目と前成人期の発達課題「親密性」7項目、計14項目を使用した<sup>7)</sup>。「4 とてもよく当てはまる」～「0 全くあてはまらない」の5件法で、項目2, 4, 5, 7, 8, 11, 13, 14は逆転項目であるので、点数を反転させて計算してある。同一性合計得点の平均値は、 $14.84 \pm 4.47$ 、親密性は $15.61 \pm 3.98$ で、性差・学年差は認められなかった(表20)。

下位項目においては、「6. 私は、自分が好きだし、自分に誇りをもっている」が1.46と最も低く、特に女性は1.28と男性の1.61に比べ有意に低かった。他に性差が認められた項目は「9. 私は、特定のひとと深いつきあいができる」で女性が、「10. 私は、あたたかく親切な人間である」で男性の得点が有意に高かった。

学年別では、親密性の下位項目で有意差が見られた項目が多く、「9. 特定のひとと深いつきあいができる」「12. 他人たちと親密な関係を持っている」で学年が上がるにつれて得点が高くなっていく一方、「11. 私は、もともとひとりぼっちである」「13. 私は、他人よりも目立つのを好まない」「14. 私は、他のひとたちとなかなか親しくなれない」といういずれも逆転項目の得点が学年上がるにつれ低くなっている、すなわち孤立感が高まっている。これは、設問14-4「私なひとりぼっちで寂しい」(表17)でも同傾向が見られている。

以上のように同一性、親密性の合計得点では中学1～3年の年齢では性差、年齢差がなかったが、下位項目では違いが認められ、合計得点には現れない内容の変化が伺える。

### 2-2 家族形成への意欲について一仮説の検討

「結婚希望」「子ども希望」「同一性」「親密性」と人との付き合いの15項目、価値観16項目について、それぞれとの関連を見るため、相関係数(Spearman順位相関)を算出した。「結婚希望」と「子ども希望」の相関は0.621、「同一性」「親密性」は0.495であった。「同一性」は「結婚希望」と0.109、「子ども希望」0.046と相関は低く、

「親密性」は「結婚希望」0.216「子ども希望」0.148と高くはないが有意な相関が認められた（表 21）。

「結婚希望」と価値観や意識などでは、恋人観の3項目「早く恋人が欲しい」「いつかパートナーに出会える」「最高の愛は友情から育つと思う」および子ども観の2項目「子育ては、やりがいがある」「子どもは、家庭に明るさや活気を与える」との間で0.3以上の相関が認められた。

「子ども希望」では上記結婚希望と同じく、子ども観2項目（同上）と恋人観2項目「早く恋人が欲しい」「いつかパートナーに出会える」で0.3以上の相関が認められた（表 22）。

「同一性」は居場所観3項目「私には、安心できる居場所がある」「私のことを理解してくれる大人がいる」「私は、友達がいなくても寂しい（負の相関）」と、親密性は同じく居場所観3項目と子ども観2項目で0.3以上または-0.3以下の相関が認められた。

以上の相関結果をもとに、結婚希望の有無、子ども希望の有無、同一性得点の高低3群（高群・中群・低群）同じく親密性得点高低3群別に、各項目間のクロス集計を行い検討した結果、「結婚希望」「子ども希望」ありの群、同一性・親密性が高い群は、そうでない群に比べて、異性の友だちをもつ割合が高く、ネット上を含めた友だち付き合いが活発であった。また、いつかパートナーに出会え、友情から愛が育つと考え、愛し合っていれば性行為を行ってもかまわないと思う割合が高く、恋愛についても積極的といえた。このうち、結婚希望の有無別および親密性の高低3群別の集計結果を表 23、24 に示した。

以上から、人との付き合いが活発で、恋愛に積極的、親密性・同一性の高い人は、家族形成に積極的であるという仮説は証明された。

### 2-3 アンケートの教育的意義

アンケートの最後に回答して感じたことや意見を記述回答で求めた。119件（男性76件・女性43件）の記入があり全体の22.7%であった。内容を分類した結果、アンケート全体に対する肯定的意見28件、否定的意見16件で、否定的意見のうち14件が男性であった。「分からない、むずかしい、大変だった」など負担感15件、項目に関する具体的意見が10件、調査の意味などの疑問は11件、アンケートの肯定でも否定でもなく、大人になることへの思いや感想など27件、その他（不明）が12件であった。

肯定的意見（28件）は「ためになった」「素直に答えられてよい」「大事なこと」など内容がよかったとした例が6件、「大人になることや将来を考えた」6件、「自分を知った、見つめ直した」8件、「日頃考えたことのないことを考えるいい機会だった」3件、「おもしろかった、

楽しかった」が5件であった（表 25）。任意回答だったため限られた範囲ではあるが、一定の教育的意義は認められたと言えよう。

一方、否定的意見（16件）は、「意味ない、おかしい、くだらない、嫌い、へん」など内容に関する批判が6件、「めんどろ、だるい、多すぎる」などが6件、「やめて」が4件であった。

疑問（11件）は、「なんでこんなアンケートをとるのか」「どう使用されるのか」といった内容で、一部の生徒には事前の説明が不十分だった可能性がある。今後の課題としたい。

## IV 考察

2001年に実施された大学生調査と本年実施した中学生調査のデータ分析結果から、家族形成意欲に関連する要因を検討する。

### 1. 安定した結婚生活への希求

大学生データの重回帰分析において抽出された結婚希望を規定する要因は、男女ともに「結婚は永遠である」という価値観であった。イタリアで作成された質問文を日本の大学生がどのように理解したかは不明であるが、結婚に対して肯定的で安定したイメージをもつものが結婚を希望すると考えられた。

中学生調査において結婚希望は「いつか人生をともにするパートナーに出会える」との相関が今回の質問項目のうちで最も高かった。これを「一人のパートナーと一生をともにする」という考えと捉えれば、大学生における「結婚は永遠である」と共通した安定、継続といった価値観が根底にあると考えられよう。

また、中学生の結婚希望と子ども希望との相関は高く、子どもや子育てを肯定的にとられる価値観とも関連があり、結婚と子どもを持つことのイメージは結びついているといえる。大学生データにおける子ども希望数についての説明力は小さいものであったが、「結婚は永遠である」という因子は男女ともに認められた。

このように安定した結婚を希求し、結婚と子どもを育てることが結びついたイメージを持つことは、将来の養育力を備えた家族形成の基盤として望ましいといえよう。

### 2. 家族形成意欲と親密性・心の居場所

結婚に肯定的なイメージをもち家族形成意欲を高める条件としては、仮説の証明で明らかとなったように、周囲の人との付き合いが活発で、恋愛について積極的であること、同一性・親密性が高いことがあげられる。特に親密性は子どもや子育てを肯定する価値観とも結びついており、家族形成にとって重要な要素といえる。また、同一性と親密性が高いグループは「安心できる居場所がある」と回答する割合が高かった。

以上を総合すると、人と親密に付き合い、心の居場所があるという現在の心の安定が、将来を考えるゆとりを生み出し、家族形成意欲に繋がるものと考えられる。青年にとって心の居場所を持つよう支援・配慮することが重要である。その際、現在においてはインターネット利用の功罪について考慮することが欠かせないであろう。紙面の都合で詳細は示すことができなかったが、居場所があると答えたグループはネット利用に積極的であった。現在の若者の安心できる心の居場所とはどこか調べることも必要であろう。

### 3. 家族形成意欲を低くする可能性のある要因

反対に、家族形成意欲を低くしている要因を考察すると、中学生の結婚希望は、家庭内の男女の固定的役割分担肯定と正の関連を示しており、裏を返せば、平等を支持するものは結婚を回避する傾向があることに注目する必要がある。この役割観については、昨年度の高校生を対象とした調査においても、平等主義的性役割観をもつ場合、結婚を回避する傾向が認められた<sup>3)</sup>。平等主義者が結婚を回避する理由としては、現実の結婚制度や実際の結婚生活が平等でないことと映っているからと考えられる。男女の固定的役割観、あるいは平等観がどのように形成されるものか、中学生の役割分担肯定率は学年が上がるにつれ低下しているが、どのような条件によって変化するものなのか追究していきたい。

次に中学生の希望する結婚年齢をみると、平均 23.4 歳であり、我が国の平均初婚年齢（夫 30.2 歳、妻 28.5 歳：2008 年）に比べて低い。若年者にとっては、理想の結婚年齢は現在でも高齢化していないことが示された。この希望が実現できるよう、その阻害要因を分析し排除していくことが晩婚化の緩和に繋がるものである。

### 4. カップル形成とパートナーシップについて

長年にわたり、若者の性行動調査を実行している日本性教育協会は、第 6 回「青少年の性行動全国調査」（2005 年度実施）<sup>8)</sup> の結果から、性行動に関心を持たない若者が増加していることを指摘し、性行動を早熟な状態で経験する層と、全く関心を持たない層とに二極分化していることを指摘している。このことは、この数年、マスコミ等でとりあげられている草食系男子なる言葉とも無関係ではないだろう。本報告における中学生の恋愛観・恋人観からみると、恋人がいる割合 17.6%、「友達に恋人がいると聞くとあせる」16.6%、「早く恋人が欲しい」42.6%、理想の恋人をあげた割合 47.7% など、中学生の段階で恋愛に積極的な興味を持っている割合はおおよそ半数と推測される。恋愛観は家族形成意欲に関連し、結婚を希望し親密性の高い群は「愛は友情から育つ」と考える割合が高かった。また異性の友だちがいるとしたのは 51.9% であり、この友情関係が単純に先にあげた二極分化に関連していくとは思われないが、カップル形成とパ

ートナーシップ形成の背景については追究していきたい。

また、大学生調査のセクシャルライフの満足度では、性交回数以外に女性のみ一般的な価値観が関連しており、パートナーシップ形成、家族形成に関して性差に注目した価値観の分析は今後の課題として重要といえよう。

## V 結 論

2001 年の日欧大学生調査の日本の大学生データでは、セクシャルライフの満足度の規定要因に性差が認められるなどの結果が得られた一方、結婚や子どもの希望では関連が深い項目が少なく、今後、新たな項目を追加するなどして、家族形成と青年の性行動や価値観について追究することが必須である。およそ 10 年を経た時点で新たに調査を実施することにも意味があるものとする。

中学生調査では人との付き合い方や結婚観、恋愛観などを明らかにした。多くの項目で性差が認められ、女性が人付き合いが豊かで、恋愛に積極的、家族形成にも意欲的であった。性役割分担は全体の半数が肯定し、男性の肯定割合が女性にくらべて有意に高かったが、学年が上がるにつれ全体の値は低くなっていた。他にも、学年による違いは認められ、成人への移行の過程で、さらに変化することが予測された。

結婚や子ども希望と他の項目と相関分析からは、人付き合いの豊富さと将来の家族形成への意欲との関連が認められ、同一性、親密性の得点からも確認できた。すなわち親密性の高さは、将来の家族形成への意欲と関連があるとの仮説は証明された。

もう一つの目的である、アンケートに参加することの教育的意義についても、末尾の記述回答から確認することができた。今後はさらに青年自身や教育関係者の意見聴取を行い、調査項目を吟味し、最終的には、青年が未来について考えることができるチェック・シートのようなツールを開発し、現場での支援に役立つものとした。

## 謝 辞

調査にご協力いただいた中学生の皆様、ご指導いただいた中学校の先生各位、東京都中学校校長会関係各位、原美津子先生、大学生データを提供くださった日欧性行動比較調査研究会各位に深謝申し上げます。

## 文献：

- 1) 齋藤幸子・宮原忍・他. 少子社会における養育力の背景とその育成に関する研究(1)-ワーク・ライフ・バランスと養育力に関する調査-. 日本子ども家庭総合研究所紀要: 第 43 集 : 145-164. 2007
- 2) 齋藤幸子・宮原忍・他. 少子社会における養育力の背景とその育成に関する研究(2)-ワーク・ライフ・バランスとジェネラティビティ行動-. 日本子ども家庭総合研究所紀要: 第 44 集 : 141-164. 2008

- 3) 齋藤幸子・宮原忍・他. 少子社会における養育力の背景とその育成に関する研究(3) 高校生の性役割観と将来観に関する調査. 日本子ども家庭総合研究所紀要：第45集：143-169. 2009
- 4) 佐藤龍三郎、白石紀子. 青年層と成人期移行をめぐる人口学研究の展望. 人口学研究：第44号：43-49. 2009. 5.
- 5) 宮本みち子. 若者政策の展開-成人期への移行保障の枠組み. 思想：No. 983:153-166.
- 6) 佐藤龍三郎. 若者の性行動に関する日欧比較研究. 厚生科学研究費（課題番号 H11-政策-008）平成13年度報告書（主任研究者 小島 宏）先進諸国の少子化の動向と少子化対策に関する比較研究：105-176. 平成14年3月
- 7) 中西信男・佐方哲彦. EPSI-エリクソン心理社会的段階目録検査-. 上里一郎監修. 心理アセスメントハンドブック第2版. 東京. 西村書店. 365-376. 2001.
- 8) 日本性教育協会編. 「若者の性」白書 青少年の性行動全国調査報告 第6回. 小学館. 2007

中学生対象「あなたの将来に関するアンケート」集計表

\*p<0.05 \*\*p<0.01

表7. 性・学年別対象人数内訳

No.		全体		1年生		2年生		3年生	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1	男	281	53.6	148	53.8	66	46.5	67	62.6
2	女	243	46.4	127	46.2	76	53.5	40	37.4
	回答者数合計	524	100.0	275	100.0	142	100.0	107	100.0

表8. 中学卒業後の進路 (%)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	中学卒業後、就職	0.0	0.0	0.0	*	0.0	0.0	0.0	*
2	高卒後、就職	23.9	26.0	21.4		26.9	22.5	17.8	
3	高卒後、大学や専門学校へ行く	71.0	66.5	76.1		65.8	73.9	80.4	
4	その他	4.6	6.8	2.1		6.5	3.5	0.9	
	不明	0.6	0.7	0.4		0.7	0.0	0.9	
	合計	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	

表9. 将来はどのような仕事につきたいか (%)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	はっきり決めている	34.9	31.3	39.1	*	34.5	32.4	39.3	n. s.
2	仕事につきたいが、内容は決めていない	49.0	48.8	49.4		47.6	54.9	44.9	
3	将来のことはまだ考えていない	15.8	19.9	11.1		17.8	12.0	15.9	
	不明	0.2	0.0	0.4		0.0	0.7	0.0	
	合計	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	

表10. 将来、結婚したいか (%)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	( ) 歳くらいに結婚したい	47.9	35.9	61.7	**	41.5	57.0	52.3	*
2	時期は決めていないが結婚したい	25.4	27.0	23.5		28.4	19.7	25.2	
3	まったく分からない	20.8	30.2	9.9		24.0	19.7	14.0	
4	結婚はしないつもり	5.5	6.8	4.1		5.8	2.8	8.4	
	不明	0.4	0.0	0.8		0.4	0.7	0.0	
	合計	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	

表10-1. 結婚したい年齢

	全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
平均	23.4	24.0	23.1	**	23.1	23.5	24.0	*
標準偏差	2.7	2.7	2.6		3.0	2.4	2.2	
最大値	32	30	32		32	30	28	
最小値	18	18	18		18	18	18	
回答者数	251	101	150		114	81	56	

表11. 将来、何人子どもが欲しいか (%)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	( ) 人くらい欲しい=出産意志あり	62.0	50.9	73.3	**	54.1	64.1	67.3	n. s.
2	わからない・無回答	38.0	49.1	26.7		45.9	35.9	32.7	
	合計	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	

表11-1. 欲しい子どもの人数

	全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
平均	2.38	2.47	2.31	n. s.	2.32	2.37	2.51	n. s.
標準偏差	0.91	1.11	0.72		0.70	1.03	1.11	
最大値	10	10	7		7	9	10	
最小値	1	1	1		1	1	1	
不明	4	4	0		2	1	1	
回答者数	317	136	176		149	91	73	

表12. 「結婚」のイメージ（複数回答：％）

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	社会的な信用が増す	19.5	19.6	19.3		20.0	19.0	18.7	
2	経済的にゆとりが持てる	22.3	17.1	28.4	**	22.9	26.8	15.0	
3	精神的に安定する	26.7	31.3	21.4	*	22.5	31.7	30.8	
4	愛する人（好きな人）と暮らせる	62.4	56.9	68.7	**	57.8	60.6	76.6	**
5	子どもを持つことができる（育児を経験できる）	47.1	38.8	56.8	**	45.5	47.9	50.5	
6	親から独立できる	23.7	21.4	26.3		19.6	29.6	26.2	
7	その他	9.4	11.4	7.0		5.8	14.8	11.2	**
	不明	6.1	9.3	2.5		7.6	5.6	2.8	
	回答数合計	217.2	205.7	230.5		201.8	235.9	231.8	

表 12-1. 結婚のイメージ：その他の記述回答

大分類	小分類	記述内容	男性	女性	計
1 ポジティブ 26件 (男性15・女性11)	パートナー 6件	お互いを理解し合える	1	0	1
		相手のことを考えられる	1	0	1
		大切な存在ができる	1	0	1
		自分と選んだ人との人生を送る。一生その人と暮らせる	1	1	2
		大好きな人とずっといっしょ	0	1	1
	アイデンティティ 2件	一つの強いほこり。支えてくれる人	0	1	1
		結婚することで自分のやるべきことがある	0	1	1
	家族 4件	家ぞくになる	1	0	1
		家の中がにぎやかになる	1	0	1
		家庭をささえなくてはいけないから仕事をがんばれる	1	0	1
		家族ができる	0	1	1
	継承 2件	剣道を自分の子に教える事ができる	1	0	1
		親と同じ気持ちになれる。	1	0	1
	幸福 10件	楽しそう・楽しく過ごせる・たのしい・楽しく行きていける	3	1	4
		幸せになれる（2件）・幸せになれそう・しあわせ	1	4	5
		少し楽になる	1	0	1
しあわせも苦しみも2倍になっていく		0	1	1	
性 1件	毎日SEXできる	1	0	1	
2 ネガティブ 16件 (男性11・女性5)	関係の悪化 3件	結婚する前はその人を好きだが、結婚後はどうでもよくなり、崩壊的になる	1	0	1
		DV	0	1	1
		いつか離婚。最初は仲良く暮らせるけど、そのうち仲が悪くなる	0	2	2
	経済的負担 2件	金がなくなる、金がかかる。経済的に大変になる	2	0	2
	精神的負担 2件	精神的にしんどい。ストレスがたまる。	2	0	2
	負担 5件	たいへんなコトが増える、たいへん	1	1	2
		つかれる、疲れることも多い	1	1	2
		めんどくさい	1	0	1
不自由 2件	自分のためのことが出来なくなる。自由がきかなくなる	2	0	2	
その他 1件	ひまつぶし	1	0	1	
3 ニュートラル 6件 (男性5・女性1)	性	SEX	1	0	1
	変化	なにかが変わる	1	0	1
	依存	めしつくらなくていい	1	0	1
	パートナー	相手のことが心配になる	1	0	1
	役割	料理ができる人、主婦になる	1	1	2
4 イメージなし 6件 (男性4・女性1)		あまりきょうみがない・イメージがない・全くない	3	0	3
		しらない・よく分からない・わからない	1	2	3
合計			35	19	54

表 13-1. 理想としてあげた恋人の含まれるジャンル (%)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	実在	20.4	10.3	32.1	**	13.5	32.4	22.4	*
2	小説	3.2	2.1	4.5		2.9	4.9	1.9	
3	コミック	13.4	11.0	16.0		13.8	13.4	12.1	
4	TVドラマ・映画	5.5	3.9	7.4		4.7	4.2	9.3	
5	その他	5.2	6.0	4.1		6.5	3.5	3.7	
	不明	52.3	66.5	35.8		58.5	41.5	50.5	
	合計	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	

表 13-2. 理想としてあげたカップルの含まれるジャンル (%)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	実在	19.5	13.5	26.3	n. s.	13.5	25.4	27.1	n. s.
2	小説	3.2	1.4	5.3		3.3	4.2	1.9	
3	コミック	5.7	5.0	6.6		4.7	7.7	5.6	
4	TVドラマ・映画	3.4	2.1	4.9		2.9	4.9	2.8	
5	その他	4.4	4.3	4.5		4.0	7.0	1.9	
	不明	63.7	73.7	52.3		71.6	50.7	60.7	
	合計	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	

表 13-3. 理想の恋人としてあげた理由

	No	男性	女性	計
容姿・見かけ 121件	1	5	71	76
	2	24	4	28
	3	0	5	5
	4	0	3	3
	5	5	4	9
性向 168件	6	7	40	47
	7	1	12	13
	8	3	3	6
	9	2	3	5
	10	2	8	10
	11	1	8	9
	12	1	4	5
	13	5	9	14
	14	5	6	11
	15	3	4	7
	16	1	4	5
	17	10	26	36
能力 31件	18	4	5	9
	19	7	14	21
	20	1	0	1
関係性	21	5	17	22
不明	22	12	10	22
合計		104	260	364

表 13-4. 理想のカップルとしてあげた理由

	No	男性	女性	計
関係性 94件	1	9	33	42
	2	10	7	17
	3	5	10	15
	4	3	11	14
	5	0	1	1
	6	1	2	3
	7	1	1	2
家庭 29件	8	8	6	14
	9	3	4	7
	10	3	3	6
	11	0	2	2
性向 62件	12	3	17	20
	13	3	10	13
	14	3	7	10
	15	3	3	6
	16	2	5	7
	17	0	3	3
	18	2	1	3
条件	19	1	5	6
	20	0	1	1
不明	21	21	5	26
合計		81	137	218

表 14.「同姓の友達」「異性の友達」「保護者」「カレシまたはカノジョ」と、どんな話をよくするか  
表 14-1.同姓の友達と(複数回答:%)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	学校や授業や成績のこと	74.0	72.2	76.1		70.5	80.3	74.8	
2	将来の進路や生き方、考え方	37.4	35.6	39.5		26.5	47.9	51.4	**
3	同性の友達のこと	73.1	66.2	81.1		72.7	70.4	77.6	
4	異性の友達のこと	50.0	40.2	61.3	**	44.7	50.0	63.6	**
5	恋愛に関すること	52.1	33.5	73.7	**	47.3	57.7	57.0	
6	自分の身体のこと	18.5	18.5	18.5		14.9	21.1	24.3	
7	性行為に関すること	21.2	23.8	18.1		16.0	21.8	33.6	**
8	新聞やニュースや社会のこと	28.2	31.0	25.1		25.1	28.2	36.4	
9	テレビ番組や芸能界のうわさ話	76.7	68.7	86.0	**	76.7	79.6	72.9	
10	ファッションや流行、趣味の話	65.1	52.7	79.4	**	64.0	64.8	68.2	
	無回答	3.1	5.3	0.4		4.4	1.4	1.9	

表 14-2.異性の友達と(複数回答:%)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	学校や授業や成績のこと	46.9	46.3	47.7		41.1	50.7	57.0	*
2	将来の進路や生き方、考え方	13.2	13.5	12.8		8.4	13.4	25.2	**
3	同性の友達のこと	28.1	26.0	30.5		22.9	28.9	40.2	**
4	異性の友達のこと	26.5	22.1	31.7	*	21.5	26.8	39.3	**
5	恋愛に関すること	26.0	20.3	32.5	**	21.5	29.6	32.7	*
6	自分の身体のこと	4.2	6.4	1.6	**	1.8	7.7	5.6	*
7	性行為に関すること	5.0	5.0	4.9		3.6	6.3	6.5	
8	新聞やニュースや社会のこと	9.5	10.3	8.6		8.4	9.2	13.1	
9	テレビ番組や芸能界のうわさ話	37.2	34.2	40.7		32.7	38.7	46.7	*
10	ファッションや流行、趣味の話	22.1	22.8	21.4		18.5	21.8	31.8	*
	無回答	30.0	35.2	23.9		34.9	27.5	20.6	

表 14-3.保護者と(複数回答:%)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	学校や授業や成績のこと	81.3	77.9	85.2	*	78.5	87.3	80.4	
2	将来の進路や生き方、考え方	64.5	62.3	67.1		61.1	66.9	70.1	
3	同性の友達のこと	50.0	37.4	64.6	**	51.3	49.3	47.7	
4	異性の友達のこと	18.5	13.9	23.9	**	18.5	16.2	21.5	
5	恋愛に関すること	10.3	6.0	15.2	**	9.5	12.7	9.3	
6	自分の身体のこと	22.7	18.1	28.0	**	23.6	23.2	19.6	
7	性行為に関すること	3.8	4.6	2.9		4.4	1.4	5.6	
8	新聞やニュースや社会のこと	51.0	49.1	53.1		48.7	53.5	53.3	
9	テレビ番組や芸能界のうわさ話	51.5	43.8	60.5	**	51.6	55.6	45.8	
10	ファッションや流行、趣味の話	37.4	29.2	46.9	**	38.5	36.6	35.5	
	無回答	7.1	10.7	2.9		6.9	4.2	11.2	

表 14-4.カレシまたはカノジョと(複数回答:%)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	学校や授業や成績のこと	10.5	8.9	12.3		6.5	17.6	11.2	**
2	将来の進路や生き方、考え方	8.8	9.3	8.2		4.4	15.5	11.2	**
3	同性の友達のこと	10.3	8.9	11.9		6.5	14.1	15.0	*
4	異性の友達のこと	9.5	9.3	9.9		6.9	12.0	13.1	
5	恋愛に関すること	13.0	10.3	16.0		9.5	18.3	15.0	
6	自分の身体のこと	4.4	4.6	4.1		2.5	6.3	6.5	
7	性行為に関すること	4.4	3.6	5.3		2.5	7.7	4.7	*
8	新聞やニュースや社会のこと	4.8	6.0	3.3		2.5	7.7	6.5	*
9	テレビ番組や芸能界のうわさ話	10.3	10.7	9.9		6.2	14.1	15.9	**
10	ファッションや流行、趣味の話	9.5	8.9	10.3		5.5	14.1	14.0	**
	無回答	82.4	84.7	79.8		86.5	76.1	80.4	

表14-5. 1~4の相手それぞれと話す内容選択数(○)の合計(人との関わりの量)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差	
1	同性の友達で○をつけた項目数	平均値	5.0	4.4	5.6	**	4.6	5.2	5.6	**
		標準偏差	2.6	2.7	2.3		2.5	2.6	2.6	
2	異性の友達で○をつけた項目数	平均値	2.2	2.1	2.3	*	1.8	2.3	3.0	**
		標準偏差	2.3	2.4	2.1		2.0	2.5	2.4	
3	保護者で○をつけた項目数	平均値	3.9	3.4	4.5	**	3.9	4.0	3.9	
		標準偏差	2.5	2.5	2.3		2.5	2.4	2.7	
4	カレシまたはカノジョで○をつけた項目数	平均値	0.9	0.8	0.9		0.5	1.3	1.1	*
		標準偏差	2.2	2.3	2.2		1.7	2.7	2.6	

表15. 友達とのつき合い方などについて(1~15のうちあてはまる番号すべてに○:複数回答%)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	仲の良い同性の友達がいる	96.8	94.7	99.2	**	97.8	94.4	97.2	
2	仲の良い異性の友達がいる	51.9	46.6	58.0	**	50.5	47.2	61.7	
3	どんなに親しい友達でも、知られたいくないことはある	72.5	73.3	71.6		69.5	74.6	77.6	
4	面と向かって言いたいことを言い合えるのが友達だと思う	68.9	63.3	75.3	**	67.3	74.6	65.4	
5	私は自分の携帯電話を持っている	64.9	57.7	73.3	**	57.1	69.7	78.5	**
6	1日にメールのやり取りは50通を超える	11.6	6.0	18.1	**	7.6	19.0	12.1	**
7	1日に携帯電話で2時間以上話す	2.5	1.8	3.3		1.8	4.2	1.9	
8	プロフやブログを持っている	17.4	9.6	26.3	**	12.0	21.8	25.2	**
9	メールのやり取りを頻繁にしないと友達ではないと思う	1.9	2.1	1.6		1.1	2.8	2.8	
10	友達ならメールや携帯電話にすぐ返信してくれる	13.7	17.4	9.5	**	14.2	14.1	12.1	
11	ネットで知り合い、メールをやりとりするだけの関係でも友達だと思う	16.8	12.8	21.4	**	15.6	14.8	22.4	
12	直接会わなくてもネット上だけで恋愛することは可能だと思う	6.7	3.6	10.3	**	5.1	9.9	6.5	
13	出会った瞬間に恋に落ちるのが恋愛だと思う	8.0	7.8	8.2		8.7	7.0	7.5	
14	最良の愛は友情から育つと思う	33.6	29.2	38.7	**	28.0	35.9	44.9	**
15	愛し合っていれば性行為をおこなってもかまわないと思う	25.0	21.4	29.2	**	13.8	31.7	44.9	**

表16.好きな人が出来た時、自分の気持ちをどう伝えるか (%)

No.		全体	男性	女性	性差	1年生	2年生	3年生	学年差
1	相手に直接、自分の気持ちを伝える	31.9	33.8	29.6	**	29.1	32.4	38.3	n. s.
2	メールや電話などで、自分の気持ちを伝える	11.5	10.3	12.8		8.0	21.1	7.5	
3	友だちにたのんで、気持ちを伝えてもらう	1.3	0.4	2.5		1.5	1.4	0.9	
4	相手にそれとなく気づかせるようにする	5.5	5.3	5.8		6.9	3.5	4.7	
5	気持ちを伝えたいが、恥ずかしくて伝えられないと思う	27.9	21.4	35.4		30.9	23.2	26.2	
6	伝えようとは思わない	17.9	22.4	12.8		19.6	14.8	17.8	
	不明	4.0	6.4	1.2		4.0	3.5	4.7	
	合計	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	

表17. 個人生活や社会について [4件法：4そう思う～1そうは思わない]

	全体		男性		女性		性差 順位和 検定	1年生		2年生		3年生		学年差 順位和 検定
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差		平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	
1. 私には、安心できる居場所がある	3.42	0.85	3.41	0.87	3.43	0.84		3.41	0.83	3.4	0.9	3.46	0.87	
2. 私のことを理解してくれる大人がいる	2.94	1.01	2.89	1.04	3	0.97		3	0.98	2.81	1.03	2.96	1.05	
3. 私のことを理解してくれる友達がいる	3.28	0.85	3.15	0.88	3.42	0.78	**	3.3	0.81	3.23	0.88	3.27	0.91	
4. 私は、ひとりぼっちで寂しい	1.74	0.86	1.69	0.87	1.8	0.85		1.65	0.83	1.76	0.86	1.94	0.93	*
5. 私は、友達がいても寂しい	1.63	0.87	1.59	0.87	1.67	0.88		1.5	0.79	1.74	0.92	1.82	0.97	**
6. 「友達に恋人がいる」と聞くとあせる	1.63	0.88	1.61	0.85	1.67	0.91		1.63	0.84	1.63	0.93	1.64	0.91	
7. 早く恋人が欲しい(もう恋人がいる場合は4に○)	2.33	1.12	2.2	1.11	2.47	1.12	**	2.2	1.08	2.52	1.17	2.39	1.12	*
8. いつか人生をともにするパートナーに出会える	2.79	0.95	2.7	0.98	2.9	0.91	*	2.67	0.95	2.84	0.95	3.01	0.92	**
9. 今の社会はだいたい男性の方が女性より優遇されている	2.26	0.89	2.13	0.93	2.41	0.8	**	2.18	0.87	2.39	0.86	2.31	0.93	*
10. 男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである	2.5	1.02	2.64	1.04	2.34	0.98	**	2.66	0.99	2.42	1.03	2.21	1.03	**
11. 子どもを育てることは、やりがいがある	3.16	0.9	3.02	0.94	3.33	0.81	**	3.07	0.94	3.27	0.79	3.25	0.91	
12. 子どもは、家庭に明るさや活気を与える	3.35	0.82	3.27	0.87	3.45	0.75	*	3.31	0.86	3.42	0.74	3.37	0.82	
13. 人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	3.47	0.76	3.36	0.83	3.59	0.64	**	3.42	0.8	3.48	0.71	3.57	0.68	
14. 次の世代の子ども達のために、地球環境をよくしたい	3.36	0.77	3.31	0.81	3.42	0.71		3.3	0.78	3.49	0.7	3.32	0.81	
15. 18歳になったら、選挙で政治をまかせる人を選びたい	2.59	1.05	2.57	1.07	2.62	1.02		2.52	1.05	2.63	1.02	2.72	1.06	
16. ひとりひとりの力が集まれば、社会を変えることができる	3.18	0.93	3.15	0.97	3.2	0.88		3.14	0.98	3.29	0.85	3.12	0.91	

表18. 将来仕事についての生活で、大切だと思うこと [4件法：4大切である～1大切でない]

	全体		男性		女性		性差 順位和 検定	1年生		2年生		3年生		学年差 順位和 検定
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差		平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	
1. 女性が出産や育児をしながら働き続けられる	2.97	0.94	2.69	0.98	3.28	0.77	**	2.84	0.98	3.04	0.87	3.18	0.84	**
2. 毎日決まった時間に帰宅できる	3.1	0.8	3.11	0.83	3.1	0.78		3.07	0.83	3.18	0.71	3.08	0.86	
3. 自立できるだけの収入を得る	3.58	0.68	3.54	0.75	3.63	0.57		3.55	0.73	3.59	0.62	3.66	0.6	
4. 家族や友人、恋人と過ごす時間がとれる	3.53	0.73	3.4	0.82	3.68	0.58	**	3.5	0.76	3.55	0.71	3.57	0.69	
5. 家庭内で家事や育児をする時間がとれる	3.49	0.74	3.35	0.79	3.64	0.64	**	3.41	0.78	3.53	0.7	3.62	0.62	*
6. 地域・社会活動に参加できる	3.03	0.75	3	0.8	3.07	0.7		3.03	0.75	3.05	0.71	3.03	0.83	
7. 学習や趣味・娯楽のための時間がとれる	3.44	0.68	3.38	0.7	3.51	0.65	*	3.38	0.68	3.48	0.69	3.53	0.65	
8. 休養やくつろぎの時間がとれる	3.62	0.6	3.54	0.64	3.71	0.54	**	3.58	0.61	3.66	0.63	3.67	0.55	
9. 仕事の内容に興味を持てる	3.62	0.63	3.57	0.66	3.68	0.58		3.6	0.65	3.63	0.6	3.65	0.6	
10. 時間を気にせず、思う存分仕事に打ち込める	3.13	0.79	3.07	0.8	3.19	0.77		3.08	0.79	3.12	0.79	3.24	0.76	
11. 仕事を通じて社会の役に立つ	3.4	0.69	3.33	0.74	3.48	0.62	*	3.34	0.71	3.4	0.66	3.53	0.65	*
12. 仕事を通じて自分の能力が高められる	3.46	0.65	3.42	0.68	3.51	0.6		3.44	0.64	3.48	0.62	3.49	0.71	

表19. 「一人前の大人になる」とはどういうことだと思うか。 [4件法：4大切である～1大切でない]

	全体		男性		女性		性差 順位和 検定	1年生		2年生		3年生		学年差 順位和 検定
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差		平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	
1. 責任ある行動がとれる	3.64	0.67	3.58	0.73	3.71	0.58	*	3.55	0.73	3.74	0.6	3.75	0.57	**
2. 経済的に親の世話にならない	3.29	0.74	3.32	0.81	3.26	0.65	*	3.22	0.78	3.41	0.66	3.31	0.7	
3. 社会的常識が身につく	3.68	0.58	3.63	0.65	3.74	0.49		3.65	0.65	3.73	0.52	3.72	0.49	
4. 社会で役に立つ	3.49	0.68	3.45	0.74	3.55	0.61		3.46	0.69	3.56	0.63	3.5	0.72	
5. 親から精神的に自立する	3.4	0.7	3.46	0.71	3.33	0.69	*	3.29	0.75	3.46	0.67	3.58	0.6	**
6. 家族ができる (結婚する・子どもが産まれる)	3.26	0.86	3.21	0.92	3.31	0.79		3.27	0.86	3.26	0.88	3.21	0.87	
7. 耐えたり、がまんしたりすることを身につける	3.46	0.7	3.45	0.74	3.47	0.65		3.41	0.73	3.54	0.63	3.48	0.71	
8. 自分以外の人を経済的に養うことができる	3.24	0.77	3.24	0.8	3.23	0.73		3.19	0.76	3.28	0.75	3.28	0.79	
9. 税金を納める	3.39	0.82	3.33	0.88	3.47	0.73		3.34	0.84	3.5	0.75	3.4	0.84	
10. 人と調和してやっていける	3.43	0.67	3.4	0.7	3.47	0.64		3.32	0.71	3.54	0.59	3.56	0.62	**
11. 自分を客観的に見られる	3.23	0.77	3.19	0.83	3.29	0.69		3.08	0.78	3.33	0.7	3.49	0.75	**
12. 判断力・決断力がつく	3.66	0.61	3.64	0.63	3.69	0.59		3.59	0.67	3.73	0.56	3.76	0.49	*
13. 自分より年下の人の面倒をみる	3.31	0.78	3.31	0.84	3.32	0.71		3.26	0.82	3.42	0.69	3.32	0.8	
14. 周りの人を気づかい、世話をやく	3.34	0.75	3.28	0.81	3.41	0.67		3.27	0.77	3.4	0.71	3.44	0.73	

表20. EPSI同一性・親密性 [5件法：4とてもよくあてはまる～0全くあてはまらない] (R) は逆転項目

	全体		男性		女性		性差 順位 和検定	1年生		2年生		3年生		学年差 順位和 検定
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差		平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	
1. 私は、自分が何になりたいのかをはっきりと考えている	2.51	1.2	2.48	1.24	2.55	1.16		2.42	1.23	2.66	1.11	2.55	1.25	
2. 私は、自分が混乱しているように感じている (R)	2.01	1.19	2.1	1.24	1.91	1.12		2.17	1.08	1.74	1.23	1.94	1.32	**
3. 私は、自分がどんな人間であるのかをよく知っている	2.31	1.12	2.32	1.17	2.28	1.06		2.33	1.07	2.3	1.12	2.26	1.24	
4. 私は、自分の人生をどのように生きたいかを自分で決められない (R)	2.23	1.16	2.22	1.22	2.25	1.1		2.28	1.15	2.11	1.09	2.27	1.29	
5. 私は、自分のしていることを本当はわかっていない (R)	2.27	1.2	2.29	1.26	2.25	1.14		2.39	1.16	2.14	1.23	2.13	1.26	
6. 私は、自分が好きだし、自分に誇りをもっている	1.46	1.16	1.61	1.2	1.28	1.08	**	1.41	1.09	1.38	1.16	1.69	1.3	
7. 私には、充実感がない (R)	2.05	1.16	2.09	1.17	2	1.14		2.13	1.1	1.96	1.13	1.95	1.3	
8. 誰かに個人的な話をされると、私は、とまどってしまう (R)	2.21	1.16	2.17	1.18	2.26	1.13		2.22	1.18	2.21	1.03	2.2	1.26	
9. 私は、特定のひとと深いつきあいができる	2.62	1.11	2.46	1.18	2.8	0.99	**	2.54	1.08	2.6	1.1	2.83	1.17	*
10. 私は、あたたかく親しい人間である	1.89	1.02	1.98	1.03	1.79	1	*	1.89	0.96	1.74	1.06	2.1	1.08	
11. 私は、もともとひとりぼっちである (R)	2.58	1.23	2.55	1.25	2.62	1.21		2.73	1.2	2.55	1.19	2.24	1.32	**
12. 私は、他の人たちと親密な関係を持っている	2.29	1.1	2.36	1.09	2.22	1.12		2.18	1.11	2.27	1.1	2.59	1.03	**
13. 私は、他の人よりも目立つのを好まない (R)	1.61	1.19	1.62	1.21	1.6	1.16		1.81	1.21	1.43	1.13	1.34	1.11	**
14. 私は、他の人たちとなかなか親しくなれない (R)	2.39	1.19	2.42	1.2	2.35	1.17		2.51	1.19	2.31	1.15	2.18	1.2	*
1.-7. 合計 同一性	14.84	4.47	15.08	4.41	14.57	4.53		15.12	4.24	14.2	4.53	14.94	4.9	
8.-14. 合計 親密性	15.61	3.98	15.54	3.99	15.7	3.98		15.85	3.78	15.16	4.11	15.64	4.26	

表 21. 家族形成意識と同一性の相関 (Spearman の順位相関係数( $\rho$ ))

	結婚希望	子ども希望	同一性	親密性
結婚希望	1	0.621**	0.109*	0.216**
子ども希望		1	0.046	0.148**
同一性			1	0.495**
親密性				1

表 22. 家族形成意識と価値観などの相関 (Spearman の順位相関係数( $\rho$ ) 0.3 以上 & -0.3 以下)

変数	vs. 変数	Spearman の 順位相関係 数( $\rho$ )	p 値 (Prob>  $\rho$  )
結婚願望	14 子ども観 子どもを育てることは、やりがいがある	0.427	<.0001
	14 子ども観 子どもは、家庭に明るさや活気を与える	0.359	<.0001
	14 恋愛観 早く恋人が欲しい (またはすでにいる)	0.440	<.0001
	14 恋愛観 いつか人生をともにするパートナーに出会える	0.499	<.0001
	10 恋愛観 愛し合っていれば性行為をおこなってもかまわない	0.315	<.0001
子ども希望	14 子ども観 子どもを育てることは、やりがいがある	0.374	<.0001
	14 子ども観 子どもは、家庭に明るさや活気を与える	0.312	<.0001
	14 恋愛観 早く恋人が欲しい (またはすでにいる)	0.342	<.0001
	14 恋愛観 いつか人生をともにするパートナーに出会える	0.355	<.0001
同一性	14 居場所観 私には、安心できる居場所がある	0.336	<.0001
	14 居場所観 私のことを理解してくれる大人がいる	0.376	<.0001
	14 居場所観 私は、友達がいても寂しい	-0.324	<.0001
親密性	14 居場所観 私のことを理解してくれる友達がいる	0.334	<.0001
	14 居場所観 私は、ひとりぼっちで寂しい	-0.336	<.0001
	14 居場所観 私は、友達がいても寂しい	-0.358	<.0001
	14 子ども観 子どもを育てることは、やりがいがある	0.348	<.0001
	14 子ども観 子どもは、家庭に明るさや活気を与える	0.345	<.0001

表 23. 結婚希望 2 群別・親密性得点高低 3 群別：人のつき合い方など (%)

		結婚 する	わか らない・し ない	$\chi^2$ 乗検 定	低	中	高	$\chi^2$ 乗検 定
友だちとの関係	1. 仲の良い同性の友達がいる	97.7	94.2		91.5	98.0	100.0	
	2. 仲の良い異性の友達がいる	57.3	36.2	**	41.1	50.0	62.7	**
	3. どんなに親しい友達でも知られたくないことはある	73.4	69.6		81.6	77.9	58.5	**
	4. 面と向かって言いたいことを言い合えるのが友達だ	74.5	52.9	**	58.2	66.7	84.5	**
ネット上での付き合い	5. 自分の携帯電話を持っている	69.5	52.2	**	64.5	59.3	71.8	
	6. 1日にメールのやり取りは50通を超える	14.1	5.1	**	10.6	10.3	14.1	
	7. 1日に携帯電話で2時間以上話す	3.4	0.0		4.3	1.5	2.8	
	8. プロフやブログを持っている	21.1	7.2	**	20.6	14.2	17.6	
	9. メールやり取りを頻繁にしないと友達ではない	2.6	0.0		3.5	1.0	1.4	
	10. 友達ならメールや携帯電話にすぐ返信してくれる	15.6	8.7	*	12.1	13.7	16.2	
	11. ネットで知り合い、メールやりとりだけでも友達だ	18.2	13.0		19.9	13.7	19.0	
	12. 直接会わなくてもネット上だけで恋愛は可能だ	7.0	5.8		7.1	6.9	6.3	
恋愛観	13. 出会った瞬間に恋に落ちるのが恋愛だ	9.1	5.1		9.9	4.9	9.2	
	14. 最良の愛は友情から育つ	41.7	10.9	**	26.2	30.9	44.4	**
	15. 愛し合っていれば性行為をおこなってもかまわない	31.3	8.0	**	22.7	22.1	31.7	

表 24. 結婚希望 2 群別・親密性得点高低 3 群別：居場所観・恋愛観など 4 件法得点平均値比較

		結婚希望有無			親密性得点			
		結婚する	わからない・しない	順位和検定	低	中	高	順位和検定
心の居場所観	1. 私には、安心できる居場所がある	3.48	3.25	*	3.18	3.4	3.71	**
	2. 私のことを理解してくれる大人がいる	3.01	2.75	*	2.58	2.98	3.29	**
	3. 私のことを理解してくれる友達がいる	3.37	3.02	**	2.99	3.28	3.61	**
	4. 私は、ひとりぼっちで寂しい	1.73	1.76		2.09	1.75	1.36	**
	5. 私は、友達がいても寂しい	1.63	1.64		2.04	1.59	1.29	**
恋人・パートナー	6. 「友達に恋人がいる」と聞くとあせる	1.74	1.34	**	1.79	1.6	1.55	
	7. 早く恋人が欲しい（もう恋人がいる）	2.59	1.57	**	2.26	2.17	2.63	**
	8. いつか人生をともにするパートナーに出会える	3.08	1.99	**	2.54	2.73	3.15	**
男女平等感	9. 今の社会はだいたい男性の方が女性より優遇されている	2.34	2.03	**	2.44	2.15	2.26	*
	10. 男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである	2.57	2.31	*	2.45	2.48	2.61	
子育ての価値	11. 子どもを育てることは、やりがいがある	3.38	2.54	**	2.8	3.1	3.58	**
	12. 子どもは、家庭に明るさや活力を与える	3.54	2.85	**	3.09	3.24	3.75	**
社会意識	13. 人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	3.55	3.2	**	3.34	3.34	3.74	**
	14. 次の世代の子ども達のために、地球環境をよくしたい	3.44	3.13	**	3.23	3.3	3.57	**
	15. 18歳になったら、選挙で政治をまかせる人を選びたい	2.7	2.25	**	2.38	2.54	2.83	**
	16. ひとりひとりの力が集まれば、社会を変えることができる	3.25	2.99	*	2.97	3.1	3.46	**

表 25. アンケートに答えて感じたこと・意見自由記述回答の肯定的意見

1. アンケートで色々わかった
2. いいですね
3. いろんな質問があっっておもしろかった。
4. おもしろかったです。
5. こういうアンケートは素直に答えられるので、いいと思いました。
6. こういうことは、あまり考えたことがなかったので、いいきかいでした。
7. たのしかったー。
8. とっても考えアンケートをして、自分がどんな大人になりたいかわかりました。
9. まだまだいろいろと自分にはたりないものがあることを理かいた。
10. もう少ししょう来の事を考えたいと思った
11. 意外とアンケートは面白い
12. 意外と自分を知らないことに気が付いた。
13. 楽しかったです。
14. 今まで考えたことないようなことばかりだった。あらためて現実を見た
15. 自分が知れてよかったです。
16. 自分のためになることを書かれてるからすごくいいと思う。
17. 自分の事があらためて分かった！
18. 自分の中で考えている事を整理できまし、考えがまとまってきた。
19. 自分を改めて見つめなおすことができた。
20. 自分を見つめなおすことができた。
21. 将来の事で、すごく大事だと思う。
22. 早く大人になりたいと思ったけど大変な事がたくさんあると思った。今の彼氏を大切にしたいです。
23. 大人になることについて色々考えることができました
24. 大人になるために、しっかり今から周りを気にするようにします。
25. 大人になると大変なことはたくさんあるけれど色々な経験をするにはいいのかもしれないと思った。
26. 大人へのステップをしっかりふんで成長したい。
27. 日頃考えないことを考えられた。
28. 未来の事などの質問があっるとても『かんしん』した。

10. 友達とのつき合い方などについて、次の文章であなたがあてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 仲の良い同性の友達がいる
- 仲の良い異性の友達がいる
- どんなに親しい友達でも、知られたいくないことはある
- 面と向かって言いたいことを言い合えるのが友達だと思う
- 私は自分の携帯電話を持っている
- 1日にメールのやり取りが50通を超えている
- 1日に携帯電話で2時間以上話す
- プロフィールはブログを持っている
- メールのやり取りを頻繁にしないと友達ではないと思う
- 友達ならメールや携帯電話にすぐ返信してくれる→( )分以内
- ネット上で知り合い、メールをやりとりするだけの関係でも友達だと思う
- 直接会わなくてもネット上だけで恋愛することは可能だと思う
- 出会った瞬間に恋に落ちるのが恋愛だと思う
- 最良の愛は友情から育つと思う
- 愛し合っているだけでは性行為をおこなってもかまわないと思う

11. あなたは好きな人が出来た時、自分の気持ちをどう伝えますか。一つ選んで○をつけてください。

- 相手に直接、自分の気持ちを伝える
- メールや電話などで、自分の気持ちを伝える
- 友だちにたのんで、気持ちを伝えてもらう
- 相手にそれとなく気づかせるようにする
- 気持ちを伝えたいが、恥ずかしくて伝えられないと思う
- 伝えようとは思わない

12. あなたは「結婚」にどのようなイメージをお持ちですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。他にも何かイメージがあったら( )の中に自由に書いてください。

- 社会的な信用が増す
- 経済的にゆとりが持てる
- 精神的に安定する
- 愛する人(好きな人)と暮らせる
- 子どもを持つことができる(育児を経験できる)
- 親から独立できる
- その他( )

13. あなたが理想とする恋人やカップルはどのような人(カップル)ですか。実在の人物でも想像上の人物でもいいので具体例をあげて、ジャンルに○をつけ、その理由を書いてください

理想の恋人	名前	ジャンル	理想と想う理由
(例) モンキーD・ルフィ		3. コミック 1. 実在 2. 小説 3. コミック 4. TVドラマ・映画 5. その他( )	一生懸命生きているから
(例) 辻希美と杉浦太陽		1. 実在	明るい家庭をつくっていると想うから

あなたの将来についてのアンケート

この調査は、中学生の皆さんが将来どのように暮らしたいかを調べ、大人がどんなお手伝いができるかを考えるために行います。あなたの名前を書くところはあります。集計は「日本子ども家庭総合研究所」といいます。学校の先生が書かれた内容を見ることはありません。成績にも関係ありません。どうか安心して、思った通りに答えてください。

答え方  
1. 質問をよく読んで、あなたのあてはまる答えの番号を○でかこんでください。  
2. ( ) の中には、あてはまる言葉や数字を記入してください。

- あなたは 1 男 2 女 2. 年 齢 ( ) 歳  
3. 学 年 ( 1 . 2 . 3 ) 年 生
- あなたの将来について、うかがいます
4. 中学卒業後の進路はどのように考えていますか。一つ選んでください。
1. 中学卒業後、就職
  2. 高卒後、就職
  3. 高卒後、大学や専門学校へ行く
  4. その他

5. 将来どのような仕事につきたいか、決めていきますか。一つ選んでください。

1. はっきり決めている
2. 仕事につきたいが、内容は決めていない
3. 将来のことはまだ考えていない

6. やりたい仕事の内容やイメージがあれば、書いてください。( )

7. あなたは何歳くらいで結婚したいと思えますか。

1. ( ) 歳くらいに結婚したい
2. 時期は決めていないが結婚したい
3. まったく分からない
4. 結婚はしないつもり

8. あなたは将来、何人子どもが欲しいと思えますか。

1. ( ) 人くらい欲しい
2. わからない

友達とのつき合い方や、男女の交際について、うかがいます

9. あなたは「同性の友達」「異性の友達」「保護者」「カレシまたはカノジョ」と、どんな話をよくしますか(電話や携帯電話での会話やメールも含みます)。1~10 にあげた話題について、それぞれの人数にあてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

	1. 学校の授業や進路や成績のこと	2. 将来の進路や生き方、考え方	3. 同性の友達のこと	4. 異性の友達のこと	5. 恋愛すること	6. 自分の身体のこと	7. 性行為に関すること	8. 新聞やテレビ番組の話	9. テレ番組やネットの話題	10. ファッションや流行、趣味の話
同性の友達と	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
異性の友達と	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
保護者と	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
カレシまたはカノジョと	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

16. この設問では、いろいろな経験や性質、好みなどについての文章をあげていきます。[4とともよくあてはまる] から [0全くあてはまらない] までの5段階のうち、あなたが最もよく当てはまるところの番号を選んで○をつけてください。あまり考え込まずに、最初に思ったとおりを答えてください。

	はよ46あ3らあ2まど1なて0 まくとあてはまるあてはまるあてはまるあてはまるあてはまる	4	3	2	1	0
1. 私は、自分が何になりたいのかをはつきりと考えている		4	3	2	1	0
2. 私は、自分が混乱しているように感じている		4	3	2	1	0
3. 私は、自分がどんな人間のかをよく知っている		4	3	2	1	0
4. 私は、自分の人生をどのように生きたいかを自分で決められない		4	3	2	1	0
5. 私は、自分のしていることを本当はわかっている		4	3	2	1	0
6. 私は、自分が好きだし、自分に誇りをもっている		4	3	2	1	0
7. 私には、充実感が無い		4	3	2	1	0
8. 誰かに個人的な話をされると、私は、とまどってしまう		4	3	2	1	0
9. 私は、特定のひとと深いつきあいができる		4	3	2	1	0
10. 私は、あなたと親しい人間である		4	3	2	1	0
11. 私は、もともとひとりとぼつちである		4	3	2	1	0
12. 私は、他の人たちと親密な関係を持っている		4	3	2	1	0
13. 私は、他の人よりも自立つのを好まない		4	3	2	1	0
14. 私は、他の人たちとなかなか親しくなれない		4	3	2	1	0

最後に、「大人になる」ということについてうかがいます。

17. あなたは、「一人前の大人になる」とはどういうことだと思えますか。つぎの各項目についてどれくらい大切と考えるか、[4大切である] ~ [1大切でない] のうち一つを選んで○をつけてください。

	4. 大切である	3. まあ大切である	2. あまり大切でない	1. 大切でない
1. 責任ある行動がとれる	4	3	2	1
2. 経済的に親の世話にならない	4	3	2	1
3. 社会的常識が身につく	4	3	2	1
4. 社会で役に立つ	4	3	2	1
5. 親から精神的に自立する	4	3	2	1
6. 家族ができる(結婚する・子どもが産まれる)	4	3	2	1
7. 耐えたり、がまんしたりすることを身につける	4	3	2	1
8. 自分以外の人を経済的に養うことができる	4	3	2	1
9. 税金を納める	4	3	2	1
10. 人と調和してやっつけていける	4	3	2	1
11. 自分を客観的に見られる	4	3	2	1
12. 判断力・決断力がつく	4	3	2	1
13. 自分より年下の人の面倒をみる	4	3	2	1
14. 周りの人を気づかい、世話をやく	4	3	2	1

18. あなたは大人になりたいですか。 1. はい 2. いいえ

19. このアンケートに答えて、感じたことやご意見がありましたら、自由に書いてください。

\*\*\*ご協力ありがとうございました\*\*\*

日常生活の中で、あなたが感じていることをうかがいます

14. 個人生活や仕事について、どう思えますか。[4そう思う] から [1そうは思わない] までの4段階のうち、あなたが当てはまる番号1つを選んで○をつけてください。

	4. そう思う	3. ややそう思う	2. あまりそう思わない	1. そうは思わない
1. 私には、安心できる居場所がある	4	3	2	1
2. 私のことを理解してくれる大人がいる	4	3	2	1
3. 私のことを理解してくれる友達がいる	4	3	2	1
4. 私は、ひとりとぼつちで寂しい	4	3	2	1
5. 私は、友達がいなくても寂しい	4	3	2	1
6. 「友達に恋人がいる」と聞くとおそれる	4	3	2	1
7. 早く恋人が欲しい(もう恋人がいる場合は4に○をつけてください)	4	3	2	1
8. いつか人生をともにするパートナーに出会える	4	3	2	1
9. 今の社会はだいたい男性の方が女性より優遇されている	4	3	2	1
10. 男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである	4	3	2	1
11. 子どもを育てることは、やりがいがある	4	3	2	1
12. 子どもは、家庭に明るさや活気を与える	4	3	2	1
13. 人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	4	3	2	1
14. 次の世代の子ども達のために、地球環境をよくしたい	4	3	2	1
15. 18歳になったら、選挙で政治をまかせたい人を選びたい	4	3	2	1
16. ひとりとりの力が集まれば、社会を変えられる	4	3	2	1

ここからは、あなた自身のことやうかがいます

15. 将来あなたが仕事についていた時、どのような生活を送りたいと思えますか。次にあげる各項目があなたにとって、どれくらい大切か、[4大切である] から [1大切でない] までの4段階から、あてはまる番号1つずつ選んで○をつけてください。

	4. 大切である	3. まあ大切である	2. あまり大切でない	1. 大切でない
1. 女性が出産や育児をしながら働き続けられること	4	3	2	1
2. 毎日決まった時間に帰宅できること	4	3	2	1
3. 自立できるだけの収入を得ること	4	3	2	1
4. 家族や友人、恋人と過ごす時間がとれること	4	3	2	1
5. 家庭内で家事や育児をする時間がとれること	4	3	2	1
6. 地域・社会活動に参加できること	4	3	2	1
7. 学習や趣味・娯楽のための時間がとれること	4	3	2	1
8. 休養やくつろぎの時間がとれること	4	3	2	1
9. 仕事の内容に興味を持てること	4	3	2	1
10. 時間を気にせず、思う存分仕事に打ち込めること	4	3	2	1
11. 仕事を通じて社会の役に立つこと	4	3	2	1
12. 仕事を通じて自分の能力が高められること	4	3	2	1